

大口町の豊かな自然

出会えるかもしれない生き物たち



ナマズ



カワセミ



オオタカ



ヒメボタル



タマシギ



イシガメ



キツネ



ミホシイタチ

大口町に生息する生き物たち



▲江南丹羽環境管理組合環境美化センター

江南丹羽環境管理組合環境美化センターに勤務するかたわら、独自で動植物の観察や調査をしている吉田さん。

「江南丹羽環境管理組合環境美化センター」について教えてください。
大口町、扶桑町、江南市で発生する可燃ごみなどを処理する清掃工場です。設立は昭和42年。現在のごみ焼却処理施設は昭和57年から稼働しています。現在までの約40年間、環境に負荷のかからないように1市2町のごみ処理を続けています。

大口町の自然の中には、どんな種類の生き物がいるか知っていますか？ 私たちが普段生活する中で、もしかしたら出会えるかもしれない野生の生き物たち、タヌキ、キツネ、イタチ、オオタカ、イシガメ、ヒメボタルなど……。今回の特集では、これらの生き物たちを10年以上観察し続けている「江南丹羽環境管理組合環境美化センター」の職員である吉田さんにお話を伺いました。

ん。大口町の自然を本格的に観察し、詳しく調べて体系的にまとめているらしいですよ（※注1）。吉田さんから見た大口町の自然の魅力はどんなところですか？

大口町は、犬山扇状地の南東部に位置し、平坦な地形が続いており、農業に適した土地柄で、昔から水田や畑地などが多く農業が盛んな地域でした。なので五条川をはじめ多くの河川が農業用水として整備され、水田や畑地などが多く存在することから、河川敷・水田・用水路などの水辺環境や湿地、草原などの緑地空間によって多様な自然環境が作られ、そこに多くの生き物を観察することができそうです。ほぐよい田舎で、ある程度の自然が残っていることが大口町の自然環境の特徴ではないでしょうか。

※注1 「大口町史現代史編」（令和6年3月刊行）第一編自然を吉田昇さんが担当

組合施設はとりわけ自然豊かな田園地帯にあり、周りの景色がとても美しいですね。動物や植物の観察や調査をするようになったきっかけは？

職場周辺の環境調査をしたとき、多くの生き物がいることに気付いて、それがきっかけでいろいろな生き物を調べてみようと思いました。当施設は、年間1500人ほどの見学者をお迎えしているのですが、その中で小学校4年生が社会科で施設見学に訪れます。小学生に少しでも自然環境に興味を持ってもらうために、施設のまわりにいる魚や亀など、水辺の生き物を水槽で飼い始め、見てもらうようになったのが生き物収集の始まりです。これがきっかけとなり、大口町にはどんな生き物がいるのか調べてみようと思いました。職場が存在する河北地区では、五条川や合瀬川が流れており、河川の中、河川敷の緑地や水路などさまざまな場所で生き物を見つけることができます。調べれば調べるほど新たな発見があり、とても興味深いです。ときには絶滅危惧種や希少種も見つかるんですよ。

吉田さんは、動物の剥製や毛皮標本なども作っていらっしゃいますね！腕前はプロ級だと伺いましたが…。

初めて標本を作ったのは2011年です。河北地区で交通事故で死亡していたタヌキを見つけた時、タヌキがこの地域にいることに驚き、毛皮を標本として残せないかと思い、独学で毛皮標本を作ってみました。それがきっかけで標本作りにはまり、岐阜県博物館の標本作製のボランティアスタッフをやりながら腕を磨きました。今では、私が標本作りに熱心なことが知れ渡り、知り合いから動物が事

故で死亡していると連絡をいただくこともあります。今まで、キツネ、イタチ、アナグマなどの事故死体を回収して標本にしました。死体として処理されてしまうと何も残りませんが、標本にすることで貴重な自然資料としていつまでも残すことができます。

標本は、動物1体につきどれ位かかるものなのでしょうか？

標本の種類にもよりますが、だいたい毛皮標本だと1か月から2か月くらいです。

皮をはぐのに半日、皮に残った脂

肪や筋肉を削ぐのに2日、毛皮をなめし液につけてなめすのに1週間かかります。あとはなめし液から出して乾燥させてなじませ、細部を整え保存できる状態にします。約10年分の標本を自宅の私の部屋に衣装ケースで保管しています。が、どんどん増えてきてかろうじて自分の寝るスペースが残るばかりです（笑）。

事故にあった動物を回収するのこのですが、どんな動物がどこで事故にあうことが多いのでしょうか？

私の印象では、哺乳類や鳥類は五条川など河川の近くで事故にあっていることが多い気がします。タヌキやキツネ、イタチ、サギ、カモなどの動物にとつて、河川敷などの環境は、植物が多いのでエサとなる昆虫や小動物も多く、エサ場、隠れ家、移動経路など生活の場として利用しているのかもしれない。そして、ほかの水辺や緑地へ移動するときに道路を横切らざるをえず、事故にあってしまうのかな、と考えています。



▲キツネの毛皮標本について説明する吉田さん

最近、大口町プロモーション事業で町内の小学校に「自然環境」の出

出張業に行かれているんですね。

2019年より出張授業を始めました。最初に大口町の自然環境の特徴や自然と人のかかわりなどのお話をして、自分が見つけた生き物の写真を見せて動物の名前当てクイズをします。学校の依頼に合わせて外来種や絶滅危惧種などのお話することもあります。

その後、私が収集した尾張北部地域の野生動物の標本をブースごとにまとめて展示して生徒に観察してもらいます。剥製や毛皮、骨などいろいろな標本を持参します。キツネやタヌキ、イタチ、ヌートリアといった野生動物の毛皮に直接触れてもらってその感触を実感してもらいます。



▲小学校の出張授業

子どもたちにとって貴重な経験ですね。子どもたちの反応はいかがですか？

こういった標本に直接触れる体験はなかなかないということ、これだけたくさん生き物がこのあたりにいるということを知らない子どもが多いので、みんなとても盛り上がりてくれますよ。「キツネやタヌキがいるなんて知らなかった」とか、「イタチを見たことはあ



▲アナグマの毛皮標本



▲ヨタカ (手前)・オオコノハズクの仮剥製



▲ウシガエルの骨格標本



▲昆虫の標本

るけどじっくり見たのは初めて、という感想をもらって、改めて子どもたちに豊かな自然をもっと知ってもらいたいと思いました。そして、動物が事故にあわないためにはどうすればいいか、人と生き物が共存できるようなまちづくりについて考えてもらうきっかけにもなっています。

取材にて

動物のみならず、鳥や虫などありとあらゆる生き物の標本を作っている吉田さん。それらの標本を拝見しましたが、整然と分類されていて、まるで博物館の展示物のようでした。動物の剥製や毛皮に直接触れるという貴重な体験をさせていただき、吉田さんの趣味の域を超えた職人技に感服しました。大口町にこれだけの種類の生き物が生息していることに驚くと同時に、吉田さんの大口の自然環境に対する愛情がひしひしと伝わりました。

吉田さんは、今年4月より大口町NPO登録団体「おおぐちいきものくらぶ」を発足させ、今後より一層広く子どもたちに大口町の豊かな自然環境を伝える活動をしていくとのことでした。また、より多くのの人に知ってもらうため、今年の「ふれあいまつり」にこれらの生き物の標本を展示する予定とのお話でした。

改めて、私たち人間が自然環境の一部に過ぎないことを心に留め、身勝手に環境を壊すことのないよう、日々を過ごさねばならないと思いました。